報　告

生後1歳6か月の子どもをもつ母親の育児への自信

清　水　嘉　子

〔論文要旨〕

本研究は，生後1歳6か月の子どもをもつ母親の育児への自信を明らかにすると共に，育児幸福感，育児ストレス，蓄積的疲労，属性の検討を目的とした。生後1歳6か月の子どもをもつ母親700人を対象に自記式質問紙調査を行い，522人のデータを質的，統計学的に分析した。そのうち，育児への自信の回答は460人であった。結果は，自信のある者は39.6%，自信のない者は60.4%であった。育児幸福感（育児の喜び）が高く，育児に関する相談相手がいる母親，育児ストレスや蓄積的疲労の低い母親に育児に自信のある者が有意に多かった。育児への自信には，【子どもから得られる自信】，【母親自身の変化の気づきによる自信】，【周囲の人から得られる自信】があり，本結果から母親の育児への自信を高める支援を考察した。

Key words：育児，母親，自信，1歳6か月児

Ⅰ．はじめに

子どもが1歳6か月になると，ほとんどの子どもは歩くことが可能となり，腕や足の力が強くなる。意味のある言葉が出てきて言葉の数も増え，名前を呼ばれると返事をするようになる。自立心が芽生え自己主張がはっきりとし，子どもがかんしゃくを起こすことから，母親はイライラする時があるが，子どもの気持ちを理解し，自分でやろうとした気持ちを認めることが大切になる。母子保健法第1条でその実施が義務付けられている1歳6か月児健診は，児の発育や運動発達そして精神発達の確認，さらには，母親をはじめとする保育者の保育態度や保育環境を知る目的で行われている。従って生後1歳6か月は「発達を診るうえでは重要な時期である」こと，一方では母親や保育者の育児への姿勢，態度が児の発達に大きく影響をするであろうと考えられる。これらから，今回は1歳6か月児の発育，発達において重要な時期にある「母親の育児への自信」の確立のための要因を明らかにすること，それをもとに「母親に対しての有効な育児支援は何か」を検討することを本研究の目的とした。

著者は生後3か月の児をもつ母親を対象とした研究[1]を先行して行い，育児に自信のある母親とない母親はそれぞれ1：1であったこと，また育児に自信のある母親では，育児幸福感（育児の喜び）が高く，育児に関する相談相手がいる母親が有意に高く，育児ストレス，蓄積的疲労が低い母親に育児の自信のある者が有意に多かったことを明らかにした。また，育児への自信には，笑ってくれる，子どもに受け入れられている，必要とされている，うまくかみ合っているなどの母親が子どもから評価されていると感じている【子どもなどから評価されていることがわかる】，子育てに余裕を感じる，落ち着いてできている，楽しめているなどの【子育てが良い方向に変化している】，子どもの泣

Self-Confidence in Child Care of Mothers Who Have a 18 Month-old Infant
Yoshiko Shimizu
長野県看護大学（助産師／研究職）
別刷請求先：清水嘉子　長野県看護大学　〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地
Tel/Fax：0265-81-5181

〔2683〕
受付 14.10. 7
採用 15. 3.24

Presented by Medical*Online

きに対応できる，母乳でやれている，これで良いことがわかったなどの【子育てがうまくできたと実感できる】があった。その後，1年3か月を経過した同じ母親を対象とした調査から，体や心の発達の著しい生後1歳6か月の子どもをもつ母親の育児への自信とともに，母親の育児幸福感，育児ストレス，蓄積的疲労徴候，相談者や育児経験，母親の就業の視点から分析を加え，生後3か月の時期[1]との共通点や相違点から考察を加えたので，ここに報告する。

Ⅱ．研究方法

1．研究対象

S県内にあるA・B市に在住する，生後1歳6か月の子どもをもつ母親700人。

2．調査方法と調査期間

平成24年7月～平成26年1月のS県内にあるA保健センターで行われた1歳6か月児健診の案内をする郵便物に調査協力願いの説明文と質問紙を同封した。健診当日に質問紙調査に回答のうえ，持参することを依頼した。対象者には，生後3か月時点からの縦断的な調査への協力をお願いしている。

3．調査内容

調査は自記式質問紙調査とした。質問紙の内容は，育児の自信の有無，自信の内容の自由記述（複数回答可能とする），清水らによる尺度（育児幸福感尺度短縮版，育児ストレス尺度短縮版），蓄積的疲労徴候インデックス，母親の属性として年齢，出産経験，家族構成，就業，相談者の存在や経済状況，育児支援者の有無などであった。

調査に用いた尺度

育児幸福感尺度短縮版：母親が育児中に感じる肯定的な気持ちをもつ場面について，自由記述により得られた内容を分類して64項目を選び‘あてはまる’～‘あてはまらない’の5段階による調査を行い，8下位尺度41項目の育児幸福感尺度とした[2]。さらに41項目による調査と因子分析を行い，“育児の喜び”，“子どもとの絆”，“夫への感謝”の3因子からなる13項目の短縮版尺度を用いた[3]。

育児ストレス尺度短縮版：育児中に感じる否定的な気持ちをもつ場面についての自由記述により得られた内容を分類して130項目を選び‘あてはまる’～‘あてはまらない’の5段階による調査後，因子分析を行い各因子負荷量の上位にある総得点との相関の高い5項目を選び40項目とした。この40項目による調査を行い因子分析により9下位尺度33項目の育児ストレス尺度とした[4]。さらに33項目による調査を行い因子分析により“心身的疲労”，“育児不安”，“夫の支援のなさ”の3因子からなる16項目の短縮版尺度を用いた[5]。

蓄積的疲労徴候インデックス：労働環境において蓄積的な疲労をとらえる尺度として越河により作成されている[6]。‘不安徴候’，‘抑うつ状態’，‘一般的疲労感’，‘イライラの状態’，‘労働意欲の低下’，‘気力の減退’，‘慢性疲労’，‘身体不調’の8下位尺度，80項目である。尺度を使用するにあたり下位尺度項目の‘労働意欲の低下’は該当しないことから外し，本研究が子育てによる状態をとらえることから，尺度項目にある仕事の文言は子育てに置換した。最終的には7下位尺度，69項目とした。尺度の変更は，作成者の承諾を得た。評価基準は2段階の‘あてはまる’，‘あてはまらない’である。

4．分析方法

育児ストレスと育児幸福感の5段階による尺度基準は，‘あてはまる’～‘あてはまらない’に，5～1点を付与し下位項目ごとに合計した。蓄積的疲労徴候インデックスは，2段階評価であり，‘あてはまる’に1点を付与して下位尺度項目ごとに合計した。統計学的な分析は，t検定，χ^2検定を行った。また，自由記述は，関係コードを抽出し分類した後に，サブカテゴリー名からカテゴリー名を命名した。記述の内容からコードを区切り1件とした。なお自信並びに属性に対する欠損回答については分析から除外した。

5．倫理的配慮

調査の依頼文には，自由意思による協力であること，番号で処理し個人を特定しないことなどを明記した。なお，調査用紙の回収をもって調査への同意が得られたものとした。倫理審査は研究者の所属する倫理委員会の審査を受け平成23年に承認（＃30）を得た。

Ⅲ．結　　果

1．対象者の属性

協力の得られた母親は522人であり，回収率は74.7％であった。育児に対する自信の有無の回答は

Presented by Medical*Online

表1　1歳6か月の子どもをもつ母親の育児への自信

（n＝167）

カテゴリー	サブカテゴリー	育児事情	件数	
子どもから得られる自信	子どもが成長している姿	日々成長していく娘を見ていると最初は自信がなかった育児もこれでよかったのかな？と思える時がある（3），子どもがニコニコ笑ってくれたり自分で食べたり成長しているのがわかった時（111），小さく生まれた子が1歳の誕生日を無事迎えることができ，歩いたり短い言葉を発するようになり，初めは小さくてもちゃんと成長させられたこと（115），子どもがあいさつできるようになった時（初対面の人とか）私や主人のまねをして，そうじをしたり，いろいろ手伝ってくれたり，下の子の世話をしている時，きちんと見ているんだな～と思う。自信につながる（152）他	36	93
	子どもに必要とされている	お昼寝から起きた時に，すぐに私を探してくれること（40），フルタイムで働きながら育児をしているが，子どもが自分になついてくれているから（受情形成できていると感じる）（70），平日は夫が仕事で忙しく私一人で育児をしているので子どもの感情や扱いが慣れていて（127），休日や平日も朝晩一緒に居られる時間はなるべく遊んであげたり，絵本を読んであげたり・・そう心がけているせいか，子どもたちは「ママ，ママ！」と私を必要としてくれている気がしてすごく嬉しいです。転んだ時などに「ママ～」と呼んでくれるのもうれしかったり（147），母親を求めてくる時（150）他	18	
	子どもと意思疎通がとれた	子どもが甘えてきてくれる時，話し始めたばかりの片言でも私には理解できた時，言葉や雰囲気でコミュニケーションがとれるようになってきたので（46），子どもにダメだよって言うと，ちゃんとわかってくれた時（47），子どもとのコニュミケーションが前よりもとれるようになった気がします。取ってほしい物がわかったり何をしたいかわかったり話しかけると子どもが笑顔になるので子育て，これでいいのかなと少し自信になることがあります（134）他	15	
	子どもや家族の幸せそうな様子	基本的には元気で楽しそうにしているので衣，食，住のバランスがとれているのかなと思います（60），家族で大きな声で歌や話をして笑えた時（116），兄弟仲良く遊んだり，笑ったりしているととても幸せに思うし四人産んでよかったと思います（120）他	14	
	子育てに間違いはなかったと思える	外食した時にうろうろしたりしているのを見るとちゃんと座って食べている自分の子はえらいなと思う，躾がちゃんとできているのかなと自信になる（31），少しずつではあるが，子どもとの意思疎通ができるようになってきて，以前よりイライラすることも少なくなり，また子どもができるようになったこと（片付けや簡単な頼みごと：例ドアを閉める等）話せるようになった言葉に喜びと自分の育児が間違ってなかったのかなと感じる（41），上の子が会話をしていて普通にありがとうと言えたので優しい子どもに育ってくれていると安心した時この育て方でよかったと自信がついた（87）他	10	
母親自身の変化の気づきによる自信	子育てに慣れてきた	子どもの一日の生活パターンがわかるようになった（27），以前は泣いてしまうとおろおろとなってしまうことが多かったが，最近は少し距離をおいて時間をとって冷静に対応することができるようになった（21），毎日の育児の積み重ねで子どもの感情を読めたり，生活のリズムも定まって楽になりました（88）他	26	91
	子育ての経験がある	他のママの子育ての悩みを聞いている時（38），三人目ともなるとあきらめたところからのスタートになるので　残念度がちがってきて子どものプラス面の方に目がいくようにも思います（たまたま三人目が1歳にしてものわかりのいい子でダメが通じるし，必要以上にごねたりしないので　その性格にもかなり助けられていますが・・・）（156），二人目の子どもは自分たちのペースで育児にのぞめ，いろいろ手を出さなくても子ども自身が持っている力で成長することがわかり肩の力を抜いて二人目の子どもたちと夫と楽しく育児ができていると思います。今思えば一人目の育児の経験が活かされているからだと思えます（99）他	18	
	子育てに余裕を感じる	保育園へ預けていて仕事もできるようにもなり子どもも成長しているのが目に見えてわかるようになった，ゆとりができた（37），第1子なので初めての事だらけで夢中になっていたが，最近は「まっいっか」と思える心の余裕がでてきた（106），子ども相手の仕事をしていた時はよくイライラしていたが，今は子どもを落ち着いて見ることができる（127），いちいち気にしなくなった，子どものやることを離れて見ていられるようになった（137）他	18	
	子育てがうまくできている	年が離れての兄弟なので二人の子育てはとても大変です。時間も行動も全く違う二人を一人で見ているので時間の使い方や計画を立てながら家事，育児など工夫が上手になってきたと思います（30），子どもが泣いてもすぐに動揺しなくなった，泣きを客観視できるようになった（34），泣いてもあまり動じなくなった，最初はどうしていいかわからずオタオタして顔に不安が出ていたと思う。今は冷静に何で泣いているのか考えられるし前の私からしたら成長だと思うから，些細なことだけど日々母として成長しているな～と思います（少しのことですが）（35），間違ってもいいんだと思えるようになったというか・・一度間違ってやってしまったことでもその後できちんと伝わってもらえれば怒ってしまったこともその気づきで帳消しになるような気がした（62），教えたことをしてくれた時（56）他	17	
	子育てを楽しめている	毎日楽しく充実しているため（2），自分の時間なく毎日子育てで忙しいですが，喜びを感じたり大切に子どもを守っていることに自信を持てるようになりました（105），どんなに辛くても子どもと一緒にいる時間がとても幸せに感じる，寝不足でも体調不良でもいつでも子どものことを考える自分。そんなことは今までありえなかった（145）他	12	
周囲の人から得られる自信	周りの人に認められる	天真らんまんな性格のわが子を見て義理の両親に「上手に子育てしてきたね」と言われた一言がとてもうれしかった（1），検診で自分のしていること（子どもに対する接し方）が適切だったり，丈夫ですよ，と言われた時自信になりました（2），買い物などで街へ出た時よく息子を見て「体がしっかりしている」など声をかけてもらうことが多い（知らない方から）（5）他	8	11
	周りの人に助けられている	周りに子どもを見てくれる方がいてありがたい（母親など）（18），夫がとても協力的で子どもとよく遊んでくれるのを見て安心する。それと上の子が5歳と大きく下の子の面倒をよくみてくれるので自分に余裕が出てきたところが大きい（36），夫と子どもの話をよくするようになり，大事なこと，ささいなことでも何でも話すこと（42）他	3	

＊複数回答あり　（　）は事例番号

Presented by Medical*Online

460人であった。母親の平均年齢は33±5歳であり，子どもの数は平均1.8±0.8人であった。初産は44.1%，経産は55.9%であった。家族形態では，核家族70.1%，複合家族30.0%であった。就業状況では，専業主婦が63.2%，パートタイム12.3%，フルタイム17.9%であった。

2．育児への自信に関連した育児事情

育児への自信のある母親は182人（39.6%），自信のない母親は278人（60.4%）であり，自信のない者が多い傾向にあった。育児への自信があると回答した182人のうち167人が自信につながった育児事情について記述していた。

カテゴリーを【　】，サブカテゴリーを〈　〉，コードの記述は“　”で示した。195コードから，カテゴリーでは，コード件数の多かった順に【子どもから得られる自信】，次いで【母親自身の変化の気づきによる自信】，【周囲の人から得られる自信】で構成された。以下，カテゴリーごとに抽出したサブカテゴリーを紹介する（表1）。

1)【子どもから得られる自信】

子どもから得られる自信は，5つのサブカテゴリーで構成された。<子どもが成長している姿>，<子どもに必要とされている>，<子どもと意思疎通がとれた>，<子どもや家族の幸せそうな様子>，<子育てに間違いはなかったと思える>があった。

2)【母親自身の変化の気づきによる自信】

母親自身の変化の気づきによる自信は，5つのサブカテゴリーで構成された。サブカテゴリーで最も多かったのは，<子育てに慣れてきた>，<子育ての経験がある>，<子育てに余裕を感じる>，<子育てがうまくできている>，<子育てを楽しめている>であった。

3)【周囲の人から得られる自信】

他者によって得られる自信は，2つのサブカテゴリーで構成された。<周りの人に認められる>，<周りの人に助けられている>であった。

3．育児への自信と育児ストレス・育児幸福感・蓄積的疲労の関係

育児への自信の有無と育児ストレス・育児幸福感・蓄積的疲労の関係では，育児ストレスの“育児不安”において，育児への自信のある者が有意に低い結果になった（$p<0.01$）。また，育児幸福感では，“育児の喜び”が育児への自信のある者が有意に高い結果となった（$p<0.01$）。蓄積的疲労では，‘不安徴候’，‘抑うつ状態’，‘気力の減退’，‘慢性疲労’において育児への自信のある者が有意に低い結果となった（$p<0.01$）（表2）。

4．育児への自信と属性や支援，経済状況との関係

年齢，初経産，家族形態，就業，経済状況との分析では，育児への自信に有意差はなかった。一方，支援の状況では，夫に相談できる，夫や実母のほかに相談できる人がいる母親が，育児への自信が有意に高い結果となった（$p<0.01$）（表3）。

表2　育児への自信と育児ストレス・育児幸福感・蓄積的疲労の関係

(n=458)

尺度	下位項目	自信あり (n=182)	自信なし (n=278)
育児ストレス	心身の疲労	14.56±5.65	16.20±5.72
	育児不安	9.62±3.97*	11.62±4.67*
	夫の支援のなさ	7.90±3.93	8.30±4.24
育児幸福感	育児の喜び	23.96±1.78*	23.36±2.64*
	子どもとの絆	16.85±3.36	16.61±3.36
	夫への感謝	18.21±2.22	16.79±4.00
蓄積的疲労	不安徴候	1.13±1.47*	1.69±2.11*
	抑うつ状態	1.25±1.43*	1.76±2.01*
	一般的疲労感	2.01±1.88	2.38±2.00
	イライラの状態	1.47±1.74	1.91±1.86
	気力の減退	1.13±1.56*	1.95±2.55*
	慢性疲労	1.24±1.54*	1.70±1.82*
	身体不調	0.90±1.27	1.09±1.43

t検定，*p<0.01　（欠損値は除外して分析）

表3　育児への自信と支援，経済状況との関係

(n=458)

支援や経済状況	自信あり	自信なし	検定結果
夫に相談できる	**165**	208	*
夫に相談できない	13	**60**	
実母に相談できる	**151**	191	*
実母に相談できない	27	**73**	
夫，実母のほかに相談できる人がいる	**169**	234	*
夫，実母のほかに相談できる人がいない	13	**44**	

χ^2検定，*p<0.01（**太字**は残差+2）（欠損値は除外して分析）

Presented by Medical*Online

Ⅳ．考　　察

1．1歳6か月の子どもをもつ母親の育児への自信

1歳6か月の子どもをもつ母親の育児への自信は4割程度の母親が感じており，初産婦と経産婦には有意な差はなかった。子どもが3か月の頃[1]に比べて，母親に自信のない者が増えていた。母親の抱える困り事や悩みは子どもの年齢が上がるに従い変化しており，また，困り事や悩みの数も増えることが報告されている[7]。特に子どもとの関係性に悩む3歳頃には，母親は育児の自信をもつことが難しくなってくることが推察される。

母親としての自信には，「母親が育児すること，子どもを理解することができる能力を母親が認識していること」[8]としており，特に育児で「できると思える体験」は，母親としての自己同一性を獲得していくうえでも大切な体験であり，子どもの成長と共にできると思える体験を増やしていくことは，育児の自信につながり母親としての自信にも良い影響となることも推察された[9]。

また，経産婦は，自分の育児を評価する機会は初産婦に比べ多いと考えられたが，初産婦と経産婦の育児の自信には有意な差はなかった。子どもの数による生活満足度の差は，子どもが一人の母親の生活満足度が高く，特に親性因子については，初産婦の母親が「親である自分」や「親である生活」への満足感が高い状況が知られている[10]。また，育児充実感においても初産婦に高い結果がみられており[11]，経産婦の育児への自信は低いことが報告されている。加えて，夫の協力が得られないことや複数の子どもを育てること，自分の時間が持てないなどの束縛感や困難感が示されている[7,11]。本研究対象である母親が育児の経験をプラスにとらえている傾向にあったことが影響し有意な差に至らなかったと考えられる。経産婦はすでに育児の経験があることから，自信を得やすいと考えるのではなく母親の置かれた状況や不安や悩みに耳を傾けることが大切と考える。

育児への自信に関する育児事情では，子どもから得られる自信と母親自身の変化の気づきによる自信が大半を占めていた。ごくわずかであったが，周囲の人から得られる自信として，周りの人に認められた，助けられていると感じていた。これらの自信に関する育児事情は，育児幸福感を実感することに関連した，育児で生じた感謝などのポジティブな気持ちに類似していた。育児の自信は母親が感じるポジティブな感情であり，こうした感情には，子どもを抜きには起きないことが育児幸福感の研究からわかる[12]。そして，ポジティブ感情はより他者の方向に注意を向ける動きを持っており，ウェルビーイングが高められることが示唆されている[13]。このことからも，育児の対象である子どもから育児の自信も含めたポジティブ感情を引き出すことができると考えられる。

2．育児への自信に関連している要因と母親の育児への自信を高めるための支援

母親に相談者がいることが母親の自信に関係している点は，3か月児をもつ母親[1]と同様の結果であり，子育て期の重要な支援の視点と考えられる。母親に相談者がいることは，周囲の人に助けられ，良い評価を得ていくうえでも欠かすことができないことから，サポート者の存在を確認し，どのような影響を受けているか確認しその意味を伝えることが大切になる。特に母親の育児幸福感との関係では，育児に自信のある母親に，有意に“育児の喜び”が高く，“子どもとの絆”，“夫への感謝”も高い傾向がみられており，育児への自信が母親の育児幸福感を高めていることが推察される。

1歳6か月児健診の調査で，夫の育児参加の満足感が高いほど母親の育児困難感が低いことが明らかにされており[14]，夫の対応が母親のポジティブな感情を高める一つの要因であることが他の研究からも裏付けられている。

また，ネガティブな要素として，3か月児をもつ母親[1]との比較において蓄積的疲労では，‘イライラの状態’と育児の自信の関係はなくなったものの，他の下位項目は同様に‘不安徴候’，‘抑うつ状態’，‘気力の減退’，‘慢性疲労’が自信のある母親に有意に低く，育児ストレスでは“育児不安”のみが有意に低いことから，これらの健康面への働きかけや育児不安に対する支援が自信を高めることに間接的に有効であると考えられた。子どもが3か月の時はすべての育児ストレス項目が育児の自信に関係していたが，1歳6か月時では育児不安のみが母親の育児への自信に影響していた。1歳6か月頃になると，母親の心身の疲労や夫の支援のなさよりもむしろ，育児の不安が直接母親の自信に関係していることになる。子どもの成長に伴い，母乳や授乳，生活リズムの悩みがトイレットトレーニ

Presented by Medical*Online

ングや成長や発達への悩みへと変化している[7]。生活習慣の自立を進める具体的な方法をその開始時期に合わせて指導していくことが大切と考えられた。

母親役割への自信は，母親であることの満足感に相互に関係しており，知識，技術の自信と合図の読み取り，要求への応答，自分とわが子に合ったやり方の確立が相互に関係するとされている[15]。これらは，母親の育児への自信を高める支援に通じていると考える。1歳6か月児健診の中で，保健師は短い相談の中で話を聞き，認め，共に考え，はげまし，慰め，思いを代弁しているなどの関わりの報告がある[16]。そのことに加えて，母親の育児への自信を高めるために「子どもの反応に注目し」，「子育てによって変化している子どもの状態を感じること」，また，「子育てしている自信の感覚の変化を感じること」，「子育てでできていると思えるものを見い出すこと」などが大切になる。そして，母親との関わりによって，母親に語ってもらい，母親に気づかせ，確信に変えていくことは支援者にとり重要な役割と考える。そして，何よりも，周囲の人から得られる自信として「認められる」ことがある。子どもがよく育っていることや，よくやっていることを伝える何気ない周囲の言葉掛けが大切になる。

最後に，母乳栄養または人工栄養などの栄養形態や，出生直後の母子の早期接触や母子同室の経験が母子関係に影響すると考えられ，育児への自信の影響要因の項目に追加し，今後検討していきたい。

V．結　　論

1歳6か月の子どもをもつ母親の育児への自信は，4割程度あり，初産婦と経産婦において有意な差はなかった。特に“育児の喜び”が高く，育児相談者や支援者がいると認識している母親に自信がある者が有意に多く，自信のない母親は，“育児不安”や蓄積的疲労が有意に高かった。育児への自信のある母親は，子どもや他の人から自分が評価されていることを認識しており，子育てによる自信につながる意識の変化と，子育てに慣れてきた実感を持っていた。

なお本研究は，平成23～27年度文部科学研究基盤研究Cの助成を受けて，「母親の健康チェックシートの開発と評価－育児相談への活用と縦断調査の試み－」の研究において行われたものである。

利益相反に関する開示事項はありません。

文　　献

1）清水嘉子．生後3か月の子どもをもつ母親の育児への自信―育児幸福感，育児ストレス，蓄積的疲労，属性の検討―．小児保健研究　2013；72：672-679.

2）清水嘉子，関水しのぶ，遠藤俊子，他．母親の育児幸福感―尺度の開発と妥当性の検討―．日本看護科学学会　2011；27：15-24.

3）清水嘉子，関水しのぶ，遠藤俊子．母親の育児幸福感尺度の短縮版尺度開発．日本助産学会誌　2010；24：261-270.

4）清水嘉子．育児環境の認知に焦点をあてた育児ストレス尺度の妥当性に関する研究．ストレス科学　2001；16：176-186.

5）清水嘉子，関水しのぶ，遠藤俊子，他．母親の育児ストレス尺度―短縮版作成と妥当性の検討―．子どもの虐待とネグレクト　2010；12：261-270.

6）越河六郎，藤井　亀．労働と健康の調和　CFSI（蓄積的疲労徴候インデックス）マニュアル．東京：財団法人労働科学研究所出版部，2002：101-103.

7）唐田順子，森田明美．乳幼児の子どもをもつ子育てに関する困り事や悩みごとに関する研究―児の年齢別，初経産別による検討―．東洋大学人間科学総合研究所紀要　2007；7：249-263.

8）Badr LK. Further psychometric testing and use of the maternal confidence questionnaire. Issues in comprehensive pediatric nursing　2005；28：163-174.

9）小林康江．産後1か月の母親が「できる」と思える子育ての体験．母性衛生　2006；47：117-124.

10）及川裕子，久保恭子．乳幼児をもつ母親の精神状態と生活満足度．園田学園女子大学論文集　2013；47：85-93.

11）寺見陽子，別府悦子，西垣吉之，他．今日の母親の育児経験とソーシャルサポートに関連する研究（1）―子ども家庭支援センターを利用する母親の育児ストレスとその要因―．中部学院大学・中部学院短期大学部研究紀要　2008；9：59-71.

12）清水嘉子，遠藤俊子，松原美和，他．子育て期をより幸福に過ごすための母親の工夫とその効果．日本助産学会　2007；21：17-29.

13）島井哲志．ポジティブ心理学―21世紀―の心理学の可能性　第1版．東京：ナカニシヤ出版，2006：92-94.

Presented by Medical*Online

14）藤岡奈美，加藤菜実，濱田菜摘．1歳児の母親が抱く育児困難感と夫の育児参加に対する満足度との関係―1歳6カ月健診受診時の実態調査より―．母性衛生　2013；54：173-181.
15）前原邦江，森　恵美．産褥期における母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度の開発．千葉大学看護学部紀要　2005；27：9-18.
16）片山京子，飯田澄美子．1歳6か月児健康診査の保健指導に関する研究．小児保健研究　2008；67：790-797.

〔Summary〕

The present study aimed to examine confidence in child care among mothers of 18-month-old children, as well as child-care happiness, child-care stress, cumulative fatigue symptoms index, and attributes. We surveyed 700 mothers of 18-month-old children using a self-administered questionnaire, and analyzed data from 522 respondents qualitatively and statistically. Of these, 460 responded to questions relating to their confidence in child care, with 39.6% indicating they were confident and 60.4% indicating they were not. There was a significantly higher number of confident mothers who had a high level of child-care happiness (i.e., the joy of raising children), had someone to talk to about child care, and had lower child-care anxiety and cumulative fatigue symptoms index. Confidence in child care included "confidence obtained from the child", "confidence from becoming aware of changes within the mother herself" and "confidence obtained from surrounding people". Our findings suggest the need to provide support that heightens confidence in child care in mothers.

〔Key words〕
child care, mother, 18-month-old children, self-confidence

Presented by Medical*Online